



# 経行

## 十周年記念誌

発行日 平成十六年三月一日  
 発行人 第一宗務所青年会  
 編集 十周年記念事業実行委員会  
 印刷 創文社印刷株式会社

### 御挨拶



第六期会長  
 鬼頭廣順  
 (藤枝市 長昌寺住職)

この度、静岡県第一宗務所青年会十周年記念誌発行にあたり、会を代表してひとこと御挨拶申し上げます。

平素は宗務所長様をはじめ、管内各御寺院様、檀信徒の皆様、会員諸師におかれましては、当青年会に深いご理解と多大な御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年四月より第六期執行部がスタートし、あつという間に一年が過ぎようとしています。特に昨年は宗務所あげての梅花流五十周年の記念大会が挙行され、青年会としても現場スタッフとして会員総出の協力をさせて頂きました。また、十周年記念事業の一つとして、SVA(シヤンティー国際ボランティア会)に協力し、前青年会会長より引き継ぎました竹

筒募金、ブックバンクプロジェクト事業の達成の年でもありました。二年間掛けて集まった浄財は、目標額をはるかに上回る金額に成り、御尽力を頂いた会員諸師と、御協力を頂きました皆様方に、この場をお借りしましてあらためて御礼申し上げます。集まりました浄財はただちにSVA事務局に送金し、昨年十一月末には会員有志七名にてタイのSVAバンコク支局を訪問し、現地にて図書箱の贈呈式を済ませてまいりました。

その他青年会の活動としては、花まつりのキャンペーン事業、年二回を目標とした教化研修会、十一月十一日の世界平和記念日には、一般檀信徒の方にも参加を頂いた平和記念托鉢。歳末には各地区において歳末助け合い托鉢と、青年会としては非常に活動的な一年と成りました。

来年度は県下四宗務所の青年会員が親睦を深められるよう、スポーツ大会の企画もごさいます。第一宗務所青年会の更なる発展の為、今迄以上の御理解と御協力を最後にお願ひ申し上げます、御挨拶とさせていただきます。

「十周年に期す」



曹洞宗静岡県

第一宗務所長

糸柳 格 順

(藤枝市 洞雲寺住職)

曹洞宗静岡県第一宗務所青年会が発足して十周年を迎え、更に未来に向かって活動を展開していることに対し、畏敬の念を表しますと共に、益々のご発展を心より祈念申し上げます。

思えば昭和五十年に全国曹洞宗青年会が発足、私もその時に入会しました。当時は個人加入であり、当第一管内の会員は数人のみであったと記憶しております。後に、全曹書の会員拡大を図る方策として団体加入が提案され、全国各地の青年会等諸団体が加わり、曹書の全国への拡充が加速していきました。当時、当地志太でも加入問題が議論され、「ノルマに圧されるのでは」との懸念がありました。したが、地区単独の活動のみでは「井の

中の蛙の域を脱し得ない」という主張により、全国への団体加入が実現致しました。

かくして全曹書へ加盟した各団体も、その名称及び構成年齢に差異があり、連携活動上いくつかの支障が認められ、様々な組織改革が検討された結果、現在のような県域は宗務所単位の青年会として、再編成されたのであります。

この流れの中に、平成五年に誕生した曹洞宗静岡県第一総務所青年会は、昨年十周年を迎え、中央のスローガン「燃え上げ青年のエネルギー」を実践し続けております。今年度の事業計画を拝見すれば、その活動が豊富であること、そして内容が、青年会の研修等内部の為のみならず、街頭・ホームページを通して、社会に対して広くアピールするに足るものであることが解ります。

結成十周年を機に、更なる飛躍を目指すと共に、広く社会に貢献し得る企画を立案し、佛西祖のみ教えを、管内青年僧から社会の青年層へと、大いに布教化されんことを期待してやみません。

ホームページに「閑らに過す月日は多けれど 道をもとむる時ぞすくなき」とありました。これを拙僧の白戒の一句としつつ、十周年を迎えてのご挨拶とさせていただきます。合掌



設立に向けての熱き思い

—武藤英明と共に—

全国曹洞宗青年会第九期会長  
第一宗務所青年会元顧問



木南 広峰  
(大井川町 高福寺住職)

曹洞宗静岡県第一宗務所青年会の初代会長は周知の如く武藤英明君である。彼が今の青年会の活動を見たら何というだろうか。よくやっていると褒めてくれるだろうか。それとも、・・・。

彼と私の出会いも、また青年会を通してであった。時は昭和の時代にさかのぼる。昭和六〇年代、曹書活動は各地域を越えて全国へと広がっていた。その母体となったのが全国曹洞宗青年会であった。当時、団体加盟を実施していた全曹青に対し第一宗務所内の各団体は加盟を見合わせていた。(静三、静四はすでに加盟)しかし時の流れや、各内の意見により

気運が高まり、まず静岡中部青年会が加盟、そして志太も加盟の運びとなった。全曹青第七期神野折州会長の元であった。やがて東部青年会が加わり、実質第一宗務所内すべての会が全曹青に加盟したのである。だが、一つの宗務所内が三つに分かれて加盟していたのは静岡第一であった。私が武藤と出会ったのはまさにそんな時であった。広報を担当していた私が全曹青へと彼を誘ったのだが、彼の手腕はすぐに発揮された。やがて、それは事務局次長、事務局長へと彼を押し上げていく事になるのであるが、いつも付いて回る思いは「団体の統」であった。先ず私たちは、先輩諸兄の意見を聞くことからはじめた。平成三年頃だったように思う。ある時は遠くまで、ある時は遅くまで話し合いを続けた。「言うは易し、行は難し」であった。

私が聞いた武藤英明君最後の言葉は「木南さん青年会のこと色々大変です・・・。」であった。この言葉の数時間後に彼は不慮の事故に出会ってしまった。

今年も十一月十七日がやってくる。彼の情熱が伝わっている静岡第一曹青であってほしいと同時に、私もその熱き思いを忘れることなく支援していく覚悟である。

平成十五年十一月二十日記す



長久寺六世 武藤英明師  
第一宗務所青年会第一期会長  
平成六年十二月二十七日遷化

やがて、東、中、西の話し合いが持た

れ平成四年、発足委員会が設立し、翌年平成五年四月一日をもって統一の第一曹青が発足したのである。あの時の感激は今も忘れることができない。

設立当初の想い



第一期会長  
青野之映  
(富士市 福聚院住職)

曹洞宗静岡県第一宗務所青年会の十周年を心からお祝い申し上げます。

思い起こせば、年回りから東部代表で参画し、故武藤師と共に青年僧の一人として活動できればと思い副会長の任を受けました。武藤師は、全曹青の事務局長始め広く活躍し、早くから青年会のあり方を模索されておりました。

宗務所内各方面のご理解により、青年会が船出した矢先、会長急逝という最悪の事態に陥りました。最初の事業である授戒会に会員一丸となって挑もうとしている前に、曹青丸の帆柱が突然の嵐で折れてしまったのです。

あの時は、任期を全うし次期執行部に引き継ぐことが唯一の努めと思い、あえて、愚鈍の会長代行として、会員諸兄の誹りを背中に受けつつ、授戒会も延期にさせていただきました。英明師にいつの日にか再会の折に、この重い肩の荷を返したく存じます。その日までに少し傷んだ身心ではありますが、鉄拳も鍛えておきたいと思っております。

延期されていた授戒会も無事円成し、武藤師の墓前に酒持参で報告に行き、一献を供え落涙したことが昨日のように思い出されます。その後は、歴代会長の下で会員諸兄が活躍なさっている姿を頼もしく拝見しています。今後も、青年僧の研鑽の場としての会の存続と、諸兄のご精進とご活躍を祈念いたします。

本来ならば、初代会長の武藤英明師が執筆するはずの寄稿なのに、それが叶わなかったことが、残念無念であります。献杯

第一曹青十周年に添えて



第二期会長  
山田勇賢  
(藤枝市 偏照寺住職)

この度、第一曹青が十周年を迎えられました事、誠にお芽出当でございます。

青年会活動草創期の名残と地区特色から三団体に分かれていたものを、一宗務所一青年会の利便性を考え発足に尽力された、先達の意を汲んだ形で会長を務めさせて頂きました。

当初は、意識の中にある東・中・西の枠を取り除く事が会の充実につながるかと考えていました。発足と同時に、東海曹青・全曹青へ加盟し、精力的に对外活動に取り組んだのも、ひとつの青年会として協力し合い、行事を勤めていく事が早道と思ったからでした。東海曹青の大会

を盛大裡に勤め、その第一歩が踏み出された事を実感しました。

会の活動の充実を計る為、財政基盤を整える事も急務と考えておりました。管内寺院様から頂いた発足基金をなるべく減らさない様に、又、会員の懐にあまり負担がかからない様にする為にも、「会に財源がないと。」と考え、志太に習い、布教強化との両面を満たす授戒会の開催を進めました。

十年ひと昔とは良く言ったもので、現会員の皆さんは既にこだわりを超え、この静岡第一宗務所管内をひとつの地区と感じている様で、当初の目的は達成できた様に思います。

これから益々宗教離れが進んでいく事が危惧されるなかで、青年僧の担う課題は益々大きくなる事でしょう。草創期を土台にした更なる飛躍を期待しております。

### 青年会の思い出



第三期会長

山本俊和

(沼津市 桃源院住職)

第三代宗務所青年会の会長に選出され、まず目標にあげたのが東部地区に於いての御授戒会と、青年会始めての東海地区曹青の小大会開催という二つでありました。そこで、すぐにこの二つの事業のプロジェクトチームを編成し、副会長の二名を各ポストのヘッドにお願いし、準備を進めて行きました。やはり、一番大変だったのが東部地区での御授戒会開催で、当時は、中、西部地区におきましては、支障のない御授戒会ですが、東部地区におきましては、何十年ぶりの開催となり、候補地選びに苦戦いたしました。何箇所か候補を挙げましたが、なかなか

折り合いがつかず暗礁に乗り上げていたところ、東部地区連合会を中心に開催地であります沼津市井出大泉寺様のご理解とご協力をいただき、私の目標の一つの東部地区での御授戒会の日時、日程等が決まり、次期会長に引き継ぐことが出来ました。また東海曹青静岡小大会も、プロジェクトチームを中心に無事に円成することができました。二年間の会長職でしたが、各御老師並びにOBの皆様方、会員諸兄、そして執行部の多大なご理解とご協力があつたからこそ成し遂げられたと思います。今後の第一宗務所青年会のみますますのご活躍と、ご発展を念じ、第一宗務所青年会十周年を祝します。



創立十周年によせて



第四期会長

永原 裕晃

(静岡市 東泉寺住職)

私の青年会に対しての思い出は、青年会設立準備委員会からです。

当時は、東・中・西の三地区で独自の活道をしていました。皆それぞれに歴史があったので、「今、第一宗務所青年会は必要なのか」といった考え方が、各御寺院の間にあります。しかし、全国的にみて、宗務所の青年会組織が無いのは静岡を含めて僅かであり、単独で全曹青に加盟していたのは、志太同志会だけでした。このような状況の中で、生みの苦しみを味わいながら第一宗務所青年会は発足致しました。

発足後、すぐに東海曹青の行事として各単位曹青主催による青年会大会を第一曹青が主催しました。まだまだ足もとも

固まっていない時でしたが、全員一丸となり、講演会、親睦会、スポーツ大会を主催し、「東海に静岡第一あり」と言われるような大成功を修めました。そして、これからは、東中西の壁を無くした青年会が必要条件となってきました。それには、青年会が独自の活動を行なうことです。その為に二つの大きな行事を実行致しました。それが青年会主催による御授戒会と東海曹青大会の開催です。この二つの行事は初代会長から連綿と引き継がれてきたことでした。平成十一年十一月、大泉寺様にて御授戒会を同年十二月、東海曹青大会をと、年に二つも大きな行事をやらざるをえない条件でした。御授戒会は、会員の七割は経験の無い行事でしたが、管内の御尊宿、志太同志会、特にOBの方々にご世話をお願いいただき御授戒会を無事円成できました。

東海曹青大会は、小大会のノウハウを生かして行ない、小大会で活躍していただいた当時OBの方々もこの大会には、骨髄を惜しまずに御協力をいただき成功裡に終わりました。これらの行事は、

青年会を一枚岩にするには最高の行事だったと思います。我々の時代は、生みの苦しみ、そして、船出したとまどいと、無我無中の運営でした。これからは、発展そして継続という大きな目標に向かって会員の皆様の御精進と会員が集い合いたいという会になることを祈念しつつ結びと致します。設立十周年、おめでとうございます。

巡り会いに感謝



第五期会長

渡辺 宗徳

(静岡市中原 玉泉寺住職)

宗務所青年会十年の歩みを顧みて、歴代会長、それを支える事務局、会員各師の御尽力に謹んで敬意を表します。

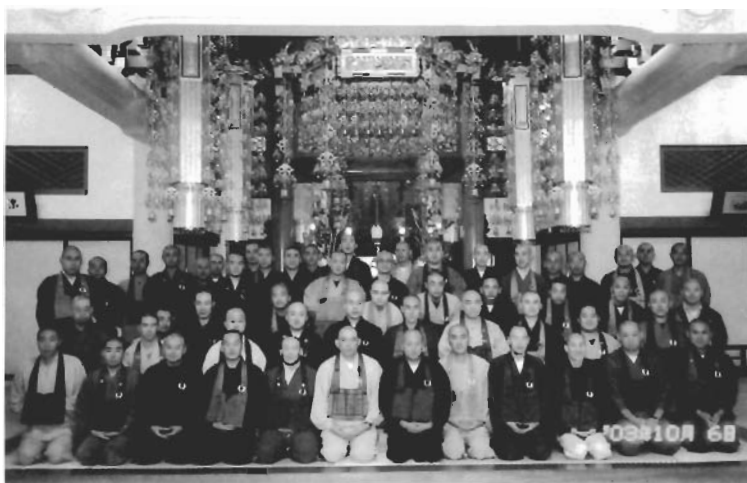
私が会長を務めさせて頂いたのは、平成十三年四月より同十五年三月までの二年間です。この時は、道元禅師七百五十

回大遠忌の諸行事が盛んに催されており、青年会でも何か記念事業をと思案していたところ、SVAより西インド災害支援についての手紙をいただき早速、仏手柑による募金活動を企画、さらにアフガン難民支援の托鉢を行いました。また絵本を贈る運動にも参加、日本の絵本に現地語のシールを貼る作務を東・中・西の各地で行い、SVAに送らせて頂きました。研修会の内容については、会員の希望に添う形で開催、会則はより出滑に活動できるように協議を重ね、ホームページの研究も進める事ができました。

そして次年度では、ボランティア募金活動の実績をふまえ、タイで絵本を入れて村々を巡回する為の図書箱を贈るべく、十周年記念事業として竹筒募金を立案し、各会員のお寺に設置させて頂きました。また、災害時に備え救命技能を訓練したり、ホームページによる広報活動も開始いたしました。

最後になりましたが、いま思いかえせば会を引き継いだ当初は、会員が九十名をこえ、活動に対して、より多くの参加

を促す為に、会則・研修・ボランティア・ホームページ・十周年記念事業等、各委員会を立ち上げるにあたり、その委員長を引受け、運営に協力を頂いた諸禅兄に巡り会えた事に、只々感謝申し上げます。



現職研修にて



静岡県第一宗務所主催《大泉寺授戒会》平成11年11月4日～8日

# 泥と蓮

## 第一宗務所青年会

ボランティア委員長

松永寛道

(静岡市 海岸に住職)

ボランティア活動の一環として図書館をタイの子供達に贈呈し、現地での視察研修を兼ねて、鬼頭会長をはじめ渡辺委員長以下総勢8名にて昨年11月の25、28日にかけてタイのバンコクに訪れた。

現在タイ全国には二七二〇ヶ所のスラム地区が存在し、その人口は320万人に達する



とも言われている。今回はその中の一つスアンブルー・スラムをSVAスタッフに案内してもらった。

近代的な町並みを一歩路地に入ると、迷路のような、人・人がやっと通れる



筆者 2列右側

ぐらゐの狭い路地。至る所にゴミが捨てられ、回りにはボロボロの小屋が建ち並ぶ。このスアンブルー・スラムには約750世帯八千人がひしめき合うようにして住んでいる。

そんな中を進んでいくとスラムの保育園が現われる。約220人の園児達が我々一行を出迎えてくれた。歓迎の式典で綺麗に着飾って伝統的な踊りを披露してくれた園児達の瞳はどれもキラキラと輝いて、思わず会員一同カメラを向けていた。

園長先生によるブリーフィングの後、園内及びスラム内を案内して頂き、その後バンコク最大のクロントイスラムにあるSVAバンコク事務所にて図書館の贈呈式を行った。

近代化が進んだバンコク市内を見るとその繁栄振りに、一見タイには支援なんか要らないかのように見える。実際にGNP成長率は急速に上昇している。しかしながらそれは都市部の一部の経済成長の成果によるもので、スラムや農村の人々、つまり大半の市民の生活は豊かにはなっていない。すべての国民の経済状況が好転したわけではなく、むしろ貧富の格差はよりいっそう広まったのである。依然としてそこには、麻薬や覚せい剤の問題、貧困・劣悪な環境・教育等といった問題が多く残されており、スラムの人々は不安定で低収入の生活からなかなか抜け出せないでいるのである。

SVAバンコク事務所長 奈辰也氏の奥様でもあり、ドゥアン・ブライティープ財団の事務局長でありタイの下院議





員でもあるプラティープ・ウンソンタム・奈女史は、16歳の時からスラム地区に入って子供達の教育やスラムの生活改善に携わってきた。女史は「スラムの天使」と呼ばれ、その功績によりアジアのノーベル賞ともいわれるラモン・マゲサイサイ賞(社会福祉部門)を受賞したのである。

ある時女史は「あなたは泥の中に咲く蓮の花のような人だ」と称えられ、こう答えたそうである。「私は泥の中の蓮であるよりも、泥そのものでありたい」と。

10周年の記念事業に向けて前渡辺宗徳会長の発案により、静岡第1曹青内にボランティア委員会が発足して2期目。今回タイへのブックバンクプロジェクトに取り組んできた。我々青年宗侶がこうしてボランティアに



関るのは、そこに菩薩行の実践があるからに他ならない。菩薩行の実践とは、女史のいわれるように、泥そのものとなるべく、目の前の泥の中に自ら飛び込んでみる事からはじ

まり、また飛び込んでみてはじめてそこに何かを見つけて得るものなのである。

この度の視察を通して、我々も泥だらけになりながら、その中で

共にもがき、共に苦しみ、共に助け合い、共に喜びを分かち合う、そんなボランティア活動ができればという思いを新たにさせて頂いた。そして泥だらけになってこそ、きつとまたあの園児達が見せてくれた、泥



中の白蓮のようなキラキラと輝く瞳に出逢えるであろうと...。末筆ながら皆様の温かなご支援とご協力に感謝申し上げます。次第であります。



### あけましておめでとございます。

みなさまのご健康とお幸せをお祈りします。エムより  
 丈夫で健康な一年でありますように。ポンスターより  
 新年みなさまにご多幸がありますよう、お祈りいたします。楽しいお正月をお迎えください。アンより



◎管内で御協力頂きました竹筒募金等395万円を寄付致しました。  
 支出の内容は以下の通りです。御協力ありがとうございました。

「2003年度 SVA ブック・バンク・プロジェクト～すべての子供に本を！」

社団法人シャンティ国際ボランティア会(SVA)  
 1タイバーツ=¥3.30

区分	算出基礎					事業費総額		申告額(円)			
	経費科目	内容	単位	算出基礎		タイバーツ	日本(円)				
図書制作費			単価	箱数		1,500	110	1	165,000	544,500	2,115,000
		クロントイ地区	単価	冊数	箱数	110	100	10	110,000	363,000	
		チェンカーン地区	単価	冊数	箱数	110	100	32	352,000	1,161,600	
		スリン地区	単価	冊数	箱数	110	100	28	308,000	1,016,400	
		バヤオ地区	単価	冊数	箱数	110	100	10	110,000	363,000	
1. 図書制作・図書購入費							935,000		3,085,500		
図書館車運行費	燃料・保守・修理他	月額	台数	月数	15,000	1	12	180,000	594,000	685,000	
機具備品費	棚、事務機器他	月額		月数	3,000	1	12	36,000	118,800		
調査研究費	資料他	月額		月数	1,000	1	12	12,000	39,600		
2. 移動図書館活動費							228,000		752,400		
給与・手当		月額	人数	月数	9,000	2	12	216,000	721,800	600,000	
研修実施費	交通費、教材費	単価	回数		25,000	6	1	150,000	495,000		
福利厚生費	医療費等	月額	人数	月数	500	2	1	1,000	3,300		
3. 図書館員(タイ人)人件費							367,000		1,211,100		
給与・手当		月額	人数	月数	70,000	1	12	840,400	2,772,000	550,000	
社会保険料	会負担分	月額	人数	月数	8,000	1	12	96,000	316,800		
調査員一時帰国旅費	バンコクー東京	単価	回数		15,000	1	1	15,000	49,500		
4. 日本人調査員人件費							951,000		3,138,300		
小計							2,481,000		8,187,300	3,950,000	
5. 現地事務所及び東京事務所費振替額			小計(1) * 20%				496,200		1,637,460		
合計							2,977,200		9,824,760	3,950,000	

曹洞宗静岡県第一宗務所青年会  
ホームページのご案内

青年会の広報活動として、約二年前にホームページを開設いたしました。これからも創意工夫を重ねながら青年会の活動の一環として頑張つて参りますのでぜひお立ち寄りください



曹洞宗静岡県第一宗務所青年会  
ホームページアドレス  
<http://www.sizusosei.com/>

遺偈

頭燃弘續四十七年

深謝法愛獨遊幽玄

盤脚二十三世

大光勇賢大和尚

偏照二十三世

第一宗務所青年会第二期会長

第十二期全国曹洞宗青年会

副会長

山田勇賢師

去る平成十六年一月廿八日に四十七歳にて遷化されましたここに謹んで会員一同弔意を表しご冥福をお祈り致します。

編  
集  
後  
記

第一宗務所青年会発足より十年余。本誌の発行にあたり歴代会長をはじめ、先輩諸師には多大なる御協力を賜り感謝の念に堪えません。築き上げてきた十年への様々な想いの中で、我々宗侶に課せられた責務の大きさを痛感し今後益々精進して行く所存でございます。

